

令和 6 年 5 月 28 日現在

機関番号：32686  
 研究種目：基盤研究(C)（一般）  
 研究期間：2019～2023  
 課題番号：19K00615  
 研究課題名（和文）日英継続バイリンガルの談話能力の発達—国際バカロレア校生徒のナラティブ研究  
  
 研究課題名（英文）The development of discourse competence among Japanese/English successive bilinguals--narra  
  
 研究代表者  
 森 聡美（Mori, Satomi）  
  
 立教大学・異文化コミュニケーション学部・教授  
  
 研究者番号：90305392  
 交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,400,000円

研究成果の概要（和文）：日英早期バイリンガル生徒の各言語のナラティブコーパスを構築し、指示語選択、結束性について、言語間の影響を中心とした横断研究・縦断研究を行った。では、複数の要因が関わる再導入環境にて言語間の影響が顕著であること、モノリンガルとバイリンガルの指示語選択は各種談話語用論的特徴への依存度が異なること、長期的データでも指示語選択の傾向に変化がないことを確認した。因果関係中心の英語と時系列中心の日本語との間に双方向の影響がみられ、縦断研究では双方向の影響が強くなることを示し、認知レベルの影響の双方向性を確認した。から言語間の影響がバイリンガル独自の言語使用を特徴付ける現象であることを示した。

#### 研究成果の学術的意義や社会的意義

早期バイリンガルの言語習得において特徴的な言語間の影響に関する理論構築（影響を受けやすい構造やその方向性、談話コンテキストの特定）とその解釈（発達途上の現象か二言語使用固有の現象か）、ならびに認知レベルでの影響には双方向性があり言語使用パターンや事態把握の再構築につながるという可能性を示唆したといえる。このように、複数言語環境下で教育を受ける生徒たちの言語・談話能力の特徴を把握する研究として貴重な知見を提供しており、今後増加が予想されるバイリンガル生徒の言語能力の理解の一助となること、殊に生徒達の言語能力の評価の考え方に一石を投じることを期待したい。

研究成果の概要（英文）：We constructed a narrative corpus of Japanese-English early bilingual students in each language and conducted cross-sectional and longitudinal studies focusing on crosslinguistic influences on (1) referential choice and (2) cohesion. We confirmed that (1) crosslinguistic effects are more pronounced in reintroduction contexts where multiple factors are involved, monolinguals and bilinguals' referential choice differs in its dependence on multiple discourse-pragmatic features, and that the tendencies in referential choice remains constant after two years; and (2) bidirectional effects were found between causality-centered English and time-sequence-centered Japanese, and longitudinal studies showed that the bidirectional effects were stronger, confirming the bidirectional nature of the effects at the cognitive level. From (1) and (2), we showed that crosslinguistic influence is a phenomenon that characterizes bilingualism's unique language use.

研究分野：バイリンガリズム、言語習得

キーワード：バイリンガル児童生徒 日本語と英語 ナラティブ 言語間の影響 指示語選択 連結表現

## 様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

・グローバル化を背景に、国際バカロレアプログラム等で主に英語で主要教科を学び、学外では日本語を使用する環境で育つ早期バイリンガル児童生徒たちは確実に増えてきており、今後も更に増加し続けることが予想される。

・このような状況下で、学校教育の現場や家庭内においてバイリンガル児童生徒の言語能力に関する正しい理解と、それに基づく適切なカリキュラムや指導方法の開発の重要性は増すばかりであるが、このような児童生徒達を対象とした言語習得・言語発達研究は極めて少ない。

・世界的に見ても、早期バイリンガルの発達研究は幼少期に偏っており、学童期さらには青年期前期の生徒達を対象としたものは限られている。早期バイリンガルの各言語知識ならびに言語使用が年齢が高くなるに従いどのような特性を持つにいたるのかについて研究はほぼないに等しい。

・これまでのバイリンガルの言語習得理論は、構造が似通った欧米諸国の二言語の習得研究に基づき構築された未完成なものであり、より多様な言語の組み合わせの習得研究が必要である。

### 2. 研究の目的

・バイリンガル教育環境下(生活言語が日本語、学習言語は主に英語)に育つ、学童期から青年期にかけての継続バイリンガルにおいて、各言語の談話能力の特徴とその発達プロセスを、ナラティブの分析を通して追究する。児童生徒達の日本語と英語のナラティブコーパスを構築し、各言語モノリンガル話者のナラティブと比較しながら談話能力の発達について横断研究ならびに縦断研究を行い、彼ら固有の談話能力の特徴を明らかにする。

・具体的には、日本語と英語とで明らかな相違がある(1)トピック維持(指示語選択)(2)ナラティブ構造(結束性)の2領域において、言語間の影響の有無とその方向性、また成長に伴いどのように変化するのかを明らかにする。

### 3. 研究の方法

・前課題「基盤研究(C)(一般)(課題番号:16K02701)」において申請者が同時バイリンガル児童を対象として行った調査項目・調査方法の一部を青年期の同時/継続バイリンガルの言語分析に適用した。各言語のナラティブ談話能力の代表的な指標である(1)トピック維持(指示語選択)と(2)ナラティブ構造(結束性)について、バイリンガルと同等の発達段階にある各言語のモノリンガルとを比較し、2グループ間の相違について言語間の影響の可能性も含めて分析した。更に長期的分析に基づきその発達過程を検証した。

### 4. 研究成果

#### (1)トピック維持(指示語選択)

・前課題のトピック維持分析では、各言語のナラティブにおける指示対象の導入、再導入、維持の各場面における指示表現選択(名詞句、代名詞、省略)を分析した結果、同時バイリンガル、早期継続バイリンガルいずれにおいても日本語のナラティブに英語の影響が観察されることを確認したが、本課題においては、それが言語処理の複雑さの影響を受けることを確認した。指示表現選択に複雑な判断を伴う再導入場面(導入と維持の両者の特徴を持ち合わせる)は他に比べ英語から日本語への強い影響があるという仮説を立て、これを支持するデータを積み重ね(Mishina-Mori et al 2019, 2021a) これらを踏まえ査読付き国際学術誌にも論文が掲載された(Mishina-Mori et al 2024)。談話語用上の判断を伴う構造は影響を受けやすいという仮説

のより強い根拠づけを提供し、言語間の影響に関する主要な理論構築に貢献した。

- ・日本語が優勢言語であるにも関わらず影響の方向性が英語から日本語の一方であり、すなわち言語ドミナンスに左右されないこと、また、構造上の重複が比較的少ない日本語と英語においても同じ仮説で説明ができることについても再確認し、本研究のデータが言語間の影響に関する主要な仮説をより強く支持することが示唆された。

- ・特に日本語のナラティブの再導入場面における指示語選択に注目した分析では、モノリンガルとバイリンガルとでは複数の談話語用論的特性(前出との近接性や競合する対象の有無など)への依存度が異なることを確認し、バイリンガルの日本語が英語の特性を帯びることを確認した(Mishina-Mori et al 2021b)。

- ・2年の間隔を開けて同様のデータ収集を行い縦断分析を行った結果、指示語選択の傾向に変化がみられないことを報告した(Mishina-Mori & Yujobo 2023)。学童期から青年期にかけて、両言語の使用経験を重ねる中でも指示表現のパターンが一定であることから、バイリンガルがもつ固有の言語体系である可能性を示唆した。

- ・児童生徒を対象とする研究においても言語間の影響に関する仮説を支持する分析結果が得られたことから、幼少期限定の現象ではないことを再確認した。より年齢の高い言語使用者にも生ずることから、言語間作用の要因として言語処理上の特性についても考察した。

## (2)ナラティブ構造(結束性)

- ・前課題において、結束性(因果関係、時系列による出来事間の連結)について、2年間の間隔を開けた長期的データに基づき言語間の影響とその経年変化を追跡調査した結果、第1回、第2回調査時のタイミングにおいても双方向の言語間の影響が観察され、さらに第2回では両言語間の特徴の違いが小さくなっていることを指摘した(Mishina-Mori et al 2017, 2018b)。今回の課題では更にデータを追加し、上記仮説を確認している(Mishina-Mori et al 2019)。

- ・このように、事態把握(同じ状況をどのように概念化するか)の影響が強く表れる言語使用においては双方向の影響がみられ、さらには表現方法の再構築が生じる可能性を提示した。

## (3)その他

- ・同じく事態把握の観点から、移動表現における二言語間の影響についても分析を始めており(Mishina-Mori & Yujobo 2024)、今後更に進める予定である。移動表現のうち方向性が動詞以外の要素に表れる傾向にある英語(satellite-framed)と動詞にその意味が含まれる日本語(verb-framed)とが併存することで、双方向の影響がみられれば上記(2)と同様の結論が得られることになり、言語間の影響の理論構築に貢献することになるだろう。

以上、本課題では、(1)指示語選択の分析から、早期バイリンガルの言語習得に特徴的な言語間の影響に関する理論構築(影響を受けやすい構造の特定や影響の方向性)に先行研究がほぼない言語ペアのデータで貢献し、また(2)結束性の分析から、認知レベルで生じると考えられる影響は双方向性を示す傾向にあり、ナラティブ構造の再構築につながるという考察を得ることができた。このように、複数言語環境下で学ぶ児童生徒たちの言語能力の特徴を把握する研究として貴重なデータを提供しており、今後ますます増加するであろうバイリンガル児童生徒の言語能力の理解を支え、更なる研究を促すこと、そして生徒達の言語能力の評価に対する考え方に影響を与えることが期待される。

## 引用文献

- Mishina-Mori, S., Nagai, Y. & Yujobo, Y. J. 2017. The use of connectives in Japanese-English bilingual children's elicited narratives. 第40回社会言語科学会 (関西大学) 2017年9月17日.
- Mishina-Mori, S., Nagai, Y. & Yujobo, Y. J. 2018a. Cross-linguistic Influence in the Use of Referring Expressions in School-age Japanese-English Bilinguals. Bertolini, Anne B. and Kaplan, Maxwell J. (eds.), *Proceedings of the 42<sup>nd</sup> Annual Boston University Conference on Language Development*, 546-557. <http://www.cascadilla.com/bucl42toc.html>
- Mishina-Mori, S., Nagai, Y. & Yujobo, Y. J. 2018b. Discursive transfer in connecting events in Japanese/English bilingual children's narratives. *The 10<sup>th</sup> Linguapax Asia International Symposium 2018* (筑波大学)
- Mishina-Mori, S., Nakano, Y. & Yujobo, Y. J. 2019. Referent re-introduction in bilingual narratives: Is it more vulnerable to cross-linguistic influence? *The 12th International Symposium on Bilingualism*. (Poster session) University of Alberta, Canada. June 23-28.
- Mishina-Mori, S., Nakano, Y. & Yujobo, Y.J. 2019. Conceptual transfer in connecting events in Japanese-English bilingual teenagers' narratives. E. Babatsouli (ed.), *Proceedings of the International Symposium on Monolingual and Bilingual Speech 2019* (pp. 80-85). ISBN: 978-618-82351-3-7. URL: <http://ismbs.eu/publications-2019>
- Mishina-Mori, S., Nakano, Y. & Yujobo J.Y. 2021a. Referent re-introduction as the locus of cross-linguistic influence: An investigation of referential choice in Japanese-English bilingual children. (Thematic session title: Japanese-English Bilinguals in Flux, with Taura, H., Taura, A., and Kutsuki, A.) Paper presented at the *13th International Symposium on Bilingualism*. University of Warsaw, Poland. (online). July 10-14.
- Mishina-Mori, S., Nakano, Y. & Yujobo J.Y. 2021b. Referent re-introduction in bilingual narratives: A qualitative analysis of crosslinguistic influence. Paper presented at the *19<sup>th</sup> AILA World Congress*, Groningen, Netherlands. (online). August 15-20.
- Mishina-Mori, S. & Yujobo, J.Y. 2023. Is it a sign of incomplete mastery or sensitivity to hearer's perspective? A longitudinal analysis of referential choice in Japanese-English bilingual adolescents' narratives. (Symposium title: Bilingual and multilingual narrative from multiple perspectives, with Taura, H., Nakamura, K., and Akagi, M.) Paper presented at the *14<sup>th</sup> International Symposium of Bilingualism*. Macquarie University, Sydney, Australia. June 26-30.
- Mishina-Mori, S., Nakano, Y., Yujobo, Y. J., & Kawanishi, Y. 2024. Is referent reintroduction more vulnerable to crosslinguistic influence? An analysis of referential choice among Japanese-English bilingual children. *Languages*, 9(4), 120; <https://doi.org/10.3390/languages9040120> (peer-reviewed) (scheduled)
- Mishina-Mori, S. & Yujobo, Y.J. 2024. Event conceptualization in Japanese-English early bilingual adolescents: An analysis of Path expressions in elicited narratives. Poster presentation at the *21<sup>st</sup> AILA World Congress*, Kuala Lumpur, Malaysia. August 11-16.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 2件／うち国際共著 0件／うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 Mishina-Mori, S., Nakano, Y. & Yujobo, Y. J.	4. 巻 2019
2. 論文標題 Conceptual transfer in connecting events in Japanese-English bilingual teenagers' narratives.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 E. Babatsouli (ed.), Proceedings of the International Symposium on Monolingual and Bilingual Speech 2019 (pp. 80-85). ISBN: 978-618-82351-3-7. URL: <a href="http://ismbs.eu/publications-2019">http://ismbs.eu/publications-2019</a>	6. 最初と最後の頁 80-85
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Mishina-Mori Satomi, Nakano Yuki, Yujobo Yuri Jody, Kawanishi Yumiko	4. 巻 9
2. 論文標題 Is Referent Reintroduction More Vulnerable to Crosslinguistic Influence? An Analysis of Referential Choice among Japanese?English Bilingual Children	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 Languages	6. 最初と最後の頁 120 ~ 120
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.3390/languages9040120	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計5件（うち招待講演 0件／うち国際学会 5件）

1. 発表者名 Mishina-Mori, S., Yujobo, Y. J.
2. 発表標題 Is it a sign of incomplete mastery or sensitivity to hearer's perspective? A longitudinal analysis of referential choice in Japanese-English bilingual adolescents' narratives
3. 学会等名 14th International Symposium on Bilingualism. Macquarie University, Australia. (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Mishina-Mori, S., Nakano, Y. & Yujobo J.Y.
2. 発表標題 Referent re-introduction in bilingual narratives: A qualitative analysis of crosslinguistic influence.
3. 学会等名 AILA World Congress, Groningen, Netherlands. (online) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Mishina-Mori, S., Nakano, Y. & Yujobo J.Y.
2. 発表標題 Referent re-introduction as the locus of crosslinguistic influence: An investigation of referential choice in Japanese-English bilingual children
3. 学会等名 13th International Symposium on Bilingualism, University of Warsaw, Poland (online) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Mishina-Mori, S., Nakano, Y. & Yujobo J.Y.
2. 発表標題 Conceptual transfer in connecting events in Japanese/English bilingual teenagers' narratives
3. 学会等名 The 3rd International Symposium on Monolingual and Bilingual Speech. (Chania, Greece). August 27-30. (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Mishina-Mori, S., Yujobo, Y. J.
2. 発表標題 Event conceptualization in Japanese-English early bilingual adolescents: An analysis of Path expressions in elicited narratives
3. 学会等名 AILA World Congress, Kuala Lumpur, Malaysia. (国際学会)
4. 発表年 2024年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分担 者	祐乗坊 由利	玉川大学・ELFセンター・准教授	
	(Yujobo Yuri)		
	(80773465)	(32639)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分 担 者	中野 悠稀  (Nakano Yuki)  (70888297)	東京家政大学・グローバル教育センター・特任講師    (32647)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関